

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079900165
法人名	有限会社 九州福祉事業団
事業所名	ケアホーム 幸
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡大任町今任原3401番地116 (電話) 0947-63-4150

評価機関名	株式会社アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成20年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3人、非常勤 9人、常勤換算	3.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての1階～2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費)5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	- 円
または1日当たり 800円				

(4) 利用者の概要(2月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慈光医院 / 丸の内歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた閑静な環境の中にある穏やかな雰囲気ของกลุ่มホームである。花壇のある日当たりの良い、2階建てのホームである。玄関・居間・居室とどこも清潔に保たれ、入居者の皆さんが、これまで過ごしてこられた家庭のような環境づくりに努力されている。管理者をはじめ職員が、ケア目標を「ここがあなたの幸であり続ける家」を掲げ、日々のケアを支援している。一人ひとりの入居者の個性と尊厳を大切に入居者のペースに合わせたゆったりとした介護に日々努力されている。隣接の特別養護老人ホームやデイサービスとの交流や認知症に詳しい病院との連携もあり、多様なネットワークの中で運営を行っている。職員と入居者が共に四季を楽しみながら、ゆったりとした暮らしを実現しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では、入居者一人ひとりのペースや希望に合わせた入浴支援、成年後見制度などの活用・市町村との連携が課題となっていた。行政との情報交換により、研修などに参加しているが「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」については、更なる情報を得て研修に取り組みられることが求められる。入浴は個別に対応し、何時でも柔軟な取り組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題解決に向けて、運営推進会議で取り上げ、行政への働きかけを行うと共に、議題に取り上げる事により、ケアの振り返りや見直しを行い、議論の中で評価一連の過程を通してサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、サービスの状況などを報告し、取り組みに関する意見交換を行っている。今後は、運営推進会議のテーマを具体的に設定し、運営推進会議の機会や場を活かし、ボランティア参加による生き生きとした暮らしの情報提供など、認知症になっても、地域で安心して暮らせることなど、地域の方々への認知症の理解を高めるために、積極的に情報発信を行うことが求められる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは毎月定期的に日常の様子を写真添えて便りを送り、家族の方々に変な喜ばれている。家族の意見や希望を把握するために、苦情受付箱を玄関に設置している。また、全職員が家族に不満・苦情はないかを常に尋ねるように心がけている今後は更に運営推進会議への家族の参加を呼びかけ、意見や苦情などを気軽に言える場として活かしていくことが求められる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームの庭には花壇があり、隣接する施設や周辺に収穫物の差し入れをしたり、近隣の方の協力などが得られる関係づくりを行っている。地域の行事・運動会・文化祭などの参加も行っている。今後は、地域の方々の介護の相談に対応するなど、認知症の専門性を活かした積極的な情報発信が求められる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解しており、日々、職員全員で確認している。住み慣れた地域での安心した暮らし・地域生活の継続を支えるための支援を理念とし、「ここがあなたの幸であり続ける家」に理念を変更している。理念の実践について、職員に日常生活での対応を心がけるように伝えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を利用案内時の説明書及びホームの見やすいところに掲示し、入居者及び家族などに必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、日常的な取組みとして、サービス提供場面での声かけ・態度など日々確認している。職員間では月1回の会議・ミーティングや話し合いの機会に理念を振り返り確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する施設の行事やお祭り・盆踊りなどには、積極的に参加している。また、グループホームの意義や役割の具体的な広報・啓発活動も取り組む予定がある。地域の方との散歩中の挨拶やホームの菜園での収穫物などを配るなど地域との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員と共に前向きに取り組んでいる。運営推進会議にも議題として取り上げる事により評価の意識を高めている。運営推進会議では、ケアの振り返りや見直しを行い、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果報告については、ミーティングで協議し、改善に向けて努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政・民生委員・地域住民・家族などが参加し、検討事項や懸案事項について、その過程を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。現在、取り組んでいる行事・地域との交流やケアの個別対応などについても、担当職員が資料を作成し、報告・意見交換を行っている。今後は地域の認知症の理解を高める場として活かしてほしい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との担当者に関わる機会を多く持ち、事業所の考え方・運営や現場の事情などを伝えるようにしている。担当者や情報交換などの機会を多く持つ事で、実態の共有や課題など取り組めるように努めている。今後は更に介護教室や研修現場としての活用など連携を高めることが期待される。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護は、今後のミーティングなどで課題として取り上げていきたいと考えている。機会あるごとに職員への説明を行い、入居者の支援に結びつけてほしい。		権利擁護に関する研修などの情報を入手し、入居者・家族に「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について、情報提供できるように取り組むことが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に個別に作成している日常生活経過連絡表を報告し、その際、写真を郵送している。また、家族訪問時にはケース記録も見ていただいている。金銭管理については、その代替方法を定め了解を得ている。定期的に来所時にその出納を明らかにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口とその対応について、記載されており、説明がなされている。ホームに苦情受付箱を設置し、気軽に意見を引き出せるように働きかけている。苦情や要望などは即座に検討し改善に努めている。また、家族がホームに来られる都度に要望や苦情などの意見を把握するように取り組んでいる。出された意見・要望などはミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も、前任者との引継ぎなど混乱しないように入居者にきちんと紹介し、混乱がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別・年齢などを理由に採用は行っていない。職員が生きがいを持って勤務できるように配慮を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重し、常に敬意の気持ちを持ち、支援ができるよう取り組んでいるが、職員の研修の参加など学ぶ機会を設けることが求められる。		今後も人権教育・啓発活動の研修などに参加できるように取り組むことが求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	採用時には新人研修などにより、法人理念・ホームの理念などを説明している。専門的知識などの研修が必要な場合は、フォローアップ研修を計画し実施している。内部では、OJTにての指導に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	隣接する施設との交流を行っているが、同業者との交流は、今後の課題となっている。今後の取り組みとして行政に働きかけを行っている段階である。職員教育のための人事交流・他施設への見学や相互研修での事例検討などを通して、サービスの質の向上を図っていくことが求められる。		関連の事業所などと研修会や交流の機会を持つことにより、新たな発見やケアの充実が期待でき、今後は、サービスの質の向上を目指し、同業者との交流・見学などに取り組むことが求められる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居時には面談を行い、ホームの説明・家族の希望・要望または生活暦などを聞き対応している。他の施設も併設しており、日頃から交流がある為、他のサービスでなじみながら入居するなど支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	何よりも入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にするという信念のもとに全職員は一人ひとりの尊厳を尊重しながら家族のように自然にさりげなく対応している。また、納得できるまで十分に話を聞き、目線をしっかり合わせて対話を行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活暦・生活習慣・経験を把握し、培ってきたライフスタイル・価値観を尊重し、日々の行動や言動・言葉や表情などから真意を受けとめ、その人のしたい事・したくない事を把握し、その人らしい暮らしや尊厳を支えるように取り組んでいる。</p>		<p>入居者の思いや意向の把握は毎日の職員の気づきによるものが大きい。職員の気づきをメモで、その時々記録し、アセスメントに活用できれば、入居者の意向に寄りそったケアが可能になるのではないかとと思われる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の生活暦を把握し、職員が家族からの情報収集・ニーズを把握し、課題を明らかにし、機能を落とさないプランを日常的に取り入れ、一人ひとりの望ましい生活像を目標に個別ケアを行う介護計画の作成が求められる。</p>		<p>家族の協力が得られやすい状況にあるので、家族の協力を得ながら、入居者の情報を介護計画に反映していくことが望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に実施期間を明示し、期間毎に見直しを行っている。また、状態に応じて見直しを行い、職員ミーティングにおいてもサービス提供状況の見直し・モニタリングを行っている。家族には面接にて意見や要望を聞き計画的に取り入れている。また、計画は説明し、確認・署名をいただいている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて、通院や送迎(外食・買い物・墓参り・仏様参り・友達訪問)などを含め、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者・家族が望んだ場合、かかりつけ医への受診ができるように支援している。定期的に主治医(内科)の診察もあり、緊急時の対応も可能である。歯科医師の診察も可能な対応がとられている。年1回の健康診断も実施され、医師の指導を受けられるよう体制を整えている。いつでも適切な医療を受けられる体制ができている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に伴う意思確認書(看取りについての事前確認書)を作成し、グループホームが対応し得る最大のケアについて説明や終末に対する対応指針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いに繋げ、状態変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、終末期における対応ができるよう取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	勉強会やミーティングの際に、職員の意識の向上を図ると共に、入居者や家族の個人情報に関する取り扱いを徹底させている。日々の関わり方にも配慮し、マナー・心得・挨拶・言葉使いには注意を払い、本人が思っている(現実)を否定しない、また、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れは持っているが、行事・ドライブなど楽しみごとが共有できるように、決まりや都合で業務を進めていくことはなく、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、掃除・洗濯物たたみ・調理手伝い・買い物・散歩など、その日によって無理なく実施し、一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切にし個別性のある支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は季節の旬の食材を取り入れ、調理・盛り付け・片付けなども入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にしている。ホーム内では一般家庭で使われている陶器や漆器のやさしい材質のものを使用している。咀嚼・嚥下などの身体機能やその他の健康状態などにより、調理法を考え特別メニューを提供している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	健康状態のチェックを行い、入浴可否を見極めている。入浴時間の長さは、入居者の意思を優先し対応している。基本的には入浴時間帯を設定しているが、希望があれば、その他の時間でも対応できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	自立支援のために、入居者の(できること、できそうにないこと)については手や口を極力出さずに見守り、一緒に行くようにしている。ホーム内の野菜作り・掃除・洗濯物たたみ・調理手伝いを入居者のその日の気分によって、無理なく行っていたりなど経験や知恵を発揮する機会を作っている。遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを入居者と相談しながら実施している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	本人の気分や希望に応じて、積極的に散歩・買い物あるいは近隣訪問などに出かけている。年内の行事計画も立案され、一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、地域の花火大会・運動会の観戦・季節感を味わうことができる外出・ドライブなどの機会を設け、楽しんでいただけるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	夜間帯を除き日中は、玄関に鍵をかけず開放し、いつでも出入りができるようになっている。また、徘徊などで外出する事のある入居者は常に視界に入れ、外出を察知できるようにしている。一緒に散歩するなど、入居者の行動を制限する行為は行わない事が徹底されている。やむを得ず鍵をかける場合は、その理由を家族に説明している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	同敷地内の関連施設と共に、消防訓練を行っている。夜間の緊急事態発生も考えられ、地域の協力体制が必要で、地域住民の非難訓練の参加などが求められる。今後は、運営推進会議などで協議し、地域の協力を得ることが必要である。避難経路や出入り口など環境は整備されている。		今後は地元の消防団の協力をお願いする予定であるが、運営推進会議の機会を活かし、地域との連携・協力を依頼するなど、地域の協力を得ることが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個々の好き・嫌いは把握されており、隣接する施設で一括調理と栄養管理が行われ、バランスよく献立されている。嗜好も職員が把握し、個別対応もできている。水分摂取も配慮されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、整理整頓・清掃がよくいき届き、家具も家庭と変わらない配置で家庭的な雰囲気づくりを行っている。建物の外には畑や花壇があり、収穫を楽しんだり、四季折々の花が鑑賞できる環境の配慮がなされ、「自分が住んでいる家だ」という意識も入居者の会話からくみ取れるものがあった。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には使い慣れた家具や生活用品が配置され、安心して過ごせる空間となっている。家族の定期的な来訪があり、「母の日」や「敬老の日」には、家族は居室で一緒に過ごしていただくなど支援している。入居者にとって、居心地の良い住まいとしての工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			